

月 別 市 況

1 月

1月の取扱頭数は、牛9,582.5頭、豚30,987.5頭、1日平均取扱頭数は、牛532頭（前月比86.4%）、豚1,722頭（120.8%）であった。

年明けの在庫手当が一段落したあと荷動き振るわず、牛の入荷は減少、豚は順調。

相場は、消費最盛期の前月に比べ、和牛は下げたが、乳牛は和牛の代替手当が入ったことから保合いとなった。豚生体（上規格）405円（前月比10円安）とほぼ保合った。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,924円、乳牛（B-3）1,179円であった。

輸入牛肉は、取扱量75.8トン（前月比143.0%）、そのうちセリ取扱量4.6トンであった。相場は保合い。

3 月

3月の取扱頭数は、牛11,895.5頭、豚32,658頭、1日平均取扱頭数は、牛541頭（前月比101.9%）、豚1,484頭（100.6%）であった。

牛、豚とも入荷は横ばい。

相場は、景気回復の遅れや自粛ムードで和牛は前月並の安値に止まり、乳牛は統落した。豚生体（上規格）は、調整保管も終了し2月までの底値を脱して、443円（前月比34円高）と上げた。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,888円、乳牛（B-3）1,121円であった。

輸入牛肉は、取扱量382.3トン（前月比108.4%）、そのうちセリ取扱量2.3トンであった。相場は弱含み。

5 月

5月の取扱頭数は、牛10,580頭、豚26,839.5頭、1日平均取扱頭数は、牛529頭（前月比89.7%）、豚1,342頭（97.7%）であった。

端境期にあたり、入荷は牛減少、豚は横ばい。

相場は、末端消費の伸び悩みから、和牛は下げ、乳牛もやや下げた。豚生体（上規格）463円（前月比12円安）とほぼ保合った。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,762円、乳牛（B-3）1,044円であった。

輸入牛肉は、取扱量213.5トン（前月比72.4%）、そのうちセリ取扱量0.9トンであった。相場は保合い。

2 月

2月の取扱頭数は、牛10,616頭、豚29,500.5頭、1日平均取扱頭数は、牛531頭（前月比99.8%）、豚1,475頭（85.7%）であった。

牛の入荷は横ばい、豚は減少。

相場は、阪神大震災の自粛ムードから和牛、乳牛とも下げた。豚生体（上規格）は、調整保管の継続により400円の安定基準価格を維持し、409円（前月比4円高）とほぼ保合った。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,806円、乳牛（B-3）1,090円であった。

輸入牛肉は、取扱量352.7トン（前月比465.3%）、そのうちセリ取扱量1.8トンであった。相場は保合い。

4 月

4月の取扱頭数は、牛11,796頭、豚27,458頭、1日平均取扱頭数は、牛590頭（前月比109.1%）、豚1,373頭（92.5%）であった。

輸入牛肉の関税が引き下げられたが、入荷は牛順調、豚は減少。

相場は、和牛は前月に引き続き安値に止まった。

豚生体（上規格）は、出荷頭数の減少等から475円（前月比32円高）と続伸した。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,822円、乳牛（B-3）1,101円であった。

輸入牛肉は、取扱量294.8トン（前月比77.1%）、そのうちセリ取扱量5.8トンであった。相場は弱含み。

6 月

6月の取扱頭数は、牛11,161.5頭、豚26,805.5頭、1日平均の取扱頭数は、牛507頭（前月比95.8%）、豚1,218頭（90.8%）であった。

全国出荷頭数の減少から、入荷は牛、豚とも減少。

相場は、和牛、乳牛ともやや上げた。豚生体（上規格）は、出荷頭数の大幅減少から557円（前月比94円高）と大幅に上げた。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,793円、乳牛（B-3）1,089円であった。

輸入牛肉は、取扱量239.7トン（前月比112.3%）、そのうちセリ取扱量2.2トンであった。相場は保合い。

7 月

7月の取扱頭数は、牛11,143.5頭、豚23,909.5頭、1日平均取扱頭数は、牛531頭（前月比104.7%）、豚1,139頭（93.5%）であった。

入荷は牛順調、豚は減少。

相場は、和牛はやや下げたが、乳牛はやや上げた。豚生体（上規格）は、輸入物が市中に大量に出回り512円（前月比45円安）と下げた。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,729円、乳牛（B-3）1,072円であった。

輸入牛肉は、取扱量168.5トン（前月比70.3%）、そのうちセリ取扱量1.8トンであった。相場は保合い。

9 月

9月の取扱頭数は、牛11,513.5頭、豚28,051頭、1日平均取扱頭数は、牛576頭（前月比107.5%）、豚1,403頭（122.7%）であった。

入荷は牛、豚とも順調に増加。

相場は、和牛は規格の低い大衆物が上げ、全体としてやや上げ、乳牛も上げた。豚生体（上規格）は、上旬から中旬までは500円台の日もあったが、月末には400円割れとなり、平均価格は、464円（前月比63円安）と大幅下げた。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,779円、乳牛（B-3）1,250円であった。

輸入牛肉は、取扱量108.3トン（前月比70.4%）、セリ上場分は落れなし。

11 月

11月の取扱頭数は、牛12,786.5頭、豚31,264頭、1日平均取扱頭数は、牛580頭（前月比99.8%）、豚1,421頭（96.7%）であった。

入荷は、年末需要の最盛期を前に、牛、豚とも保合い。

相場は、本格的な鍋物料理の季節に入るとともに、月後半には歳暮、歳末手当が始まったことから需要が伸び、和牛は上げた。乳牛も和牛の代替手当等からやや上げた。豚生体（上規格）は、セーフガードが11月からスタートし、スソ物手当が強かったことから、平均価格は、421円（前月比25円高）と上げた。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,840円、乳牛（B-3）1,292円であった。

輸入牛肉は、取扱量159.9トン（前月比94.3%）、セリ上場分は取引なし。

8 月

8月の取扱頭数は、牛11,262頭、豚24,001頭、1日平均取扱頭数は、牛536頭（前月比100.9%）、豚1,143頭（100.4%）であった。

夏休みとお盆の帰省で需要の減る時機であるが、入荷は牛、豚とも順調。

相場は、和牛、乳牛とも上げた。豚生体（上規格）は、18日には584円と今年の最高値を付け、翌週には400円台まで下げと変動が激しかったが、平均価格は、527円（前月比15円高）とやや上げた。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,813円、乳牛（B-3）1,171円であった。

輸入牛肉は、取扱量153.9トン（前月比91.3%）、そのうちセリ上場分は取引なし。

10 月

10月の取扱頭数は、牛12,208.5頭、豚30,872.5頭、1日平均取扱頭数は、牛581頭（前月比100.9%）、豚1,470頭（104.8%）であった。

入荷は、秋の消費シーズンに向かい、牛、豚とも順調に推移した。

相場は、和牛は大衆物の手当が強まったことから、全体として保合いとなった。乳牛は和牛の代替手当から上げた。豚生体（上規格）は、前半の400円台から後半は300円台へと低迷し、平均価格は、396円（前月比68円安）と大きく下げた。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,743円、乳牛（B-3）1,288円であった。

輸入牛肉は、取扱量169.6トン（前月比156.6%）、セリ上場分は取引なし。

12 月

12月の取扱頭数は、牛15,435頭、豚32,235.5頭、1日平均取扱頭数は、牛643頭（前月比110.9%）、豚1,343頭（94.5%）であった。

入荷は、年末の最需要期に入り、牛は和牛を中心に増加したが、豚は低調であった。

相場は、年末需要の最盛期ではあるものの、業務用需要は盛り上がり欠け、前年と比べて、高級物は低迷し、量販店等の手当が多い大衆物は上げており、和牛はほぼもちあい、乳牛は上げた。豚生体（上規格）は、年末相場とともにセーフガード発動に伴う輸入量の減少も影響し、平均価格は、449円（前月比28円高）と上げた。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は和牛（A-4）1,886円、乳牛（B-3）1,278円であった。

輸入牛肉は、取扱量66.0トン（前月比41.3%）、セリ上場分は取引なし。